

# 平成19年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績



## HIV感染者・AIDS患者の発生動向

- ・平成19年、東京都に新たに報告されたHIV感染者とAIDS患者数は、515件となり、過去最多となった。
- ・全国の報告数に占める東京都の割合は、HIV感染者で約40%、AIDS患者は約25%であった。
- ・国籍別、性別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、日本国籍男性が増加しており全体の約90%を占めている。
- ・推定感染経路別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、性的接触が約90%を占め、同性間性的接触による感染が増加している。
- ・年齢別の推定感染経路をみると、20歳未満と20～40歳代は同性間性的接触による感染が多く、約70%以上を占めている。
- ・年齢別のHIV感染者数をみると、20、30歳代で多く、AIDS患者報告数は、30歳代以上に多い。
- ・推定感染地域をみると、国内が多く、増加している。
- ・ニューモシスチス肺炎（カリニ肺炎）の発症を契機とするAIDS患者報告が多く、AIDS患者報告数の半数以上を占めている。



## 検査・相談・療養体制

- ・平成19年、東京都のエイズ電話相談件数は都・区・八王子市保健所、エイズ電話相談全てで増加した。
- ・電話相談は、男性に多く、年齢では20歳代と30歳代が多い。
- ・電話相談内容では、感染不安や感染経路に関するものが多い。
- ・都内の保健所のHIV検査件数は、近年、増加傾向している。
- ・平成19年、東京都南新宿検査・相談室及び都保健所のHIV検査における陽性率は前年度と同程度であった。
- ・免疫機能障害による障害者手帳の交付数は増加し、HIV感染者とAIDS患者の累積報告数の半数以上を占めている。
- ・梅毒の陽性(STS)率は、男性で高く、クラミジアは、女性で高い。特にクラミジア(IgG)は30%前後であった。

本「AIDS News Letter No.120（資料編）」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、東京都に平成19年に法定報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。

図表中では、平成をH、平成元年をH1、東京都南新宿検査・相談室を南新宿と記載した。平成19年度4月より八王子保健所は八王子市保健所となったが、経年比較をするため従来の都保健所に含めて計上している。また、特別区保健所、八王子市保健所と東京都保健所を合わせて、都内の保健所と表現した。

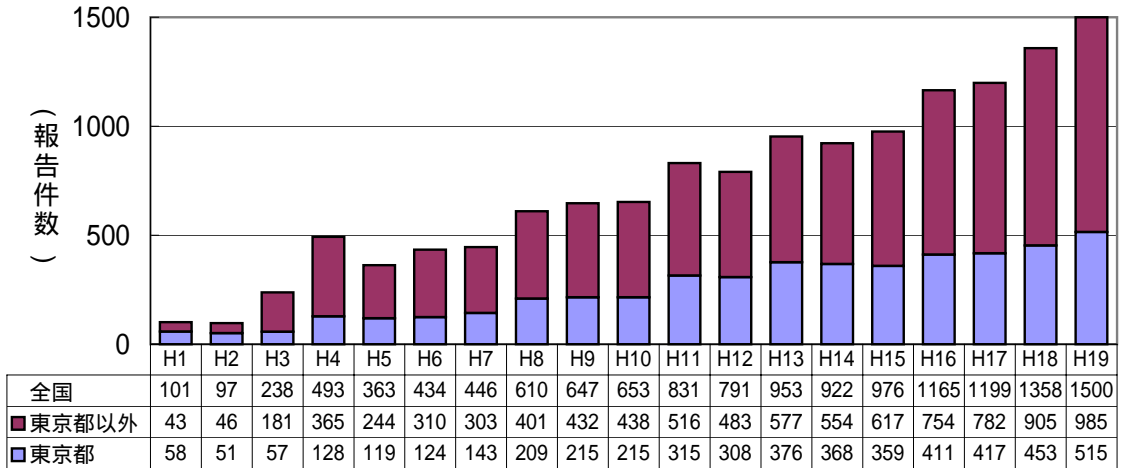
# 目次

HIV感染者及びAIDS患者の発生動向		
1-1	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都と全国の報告数年次推移
1-2	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染経路別報告数年次推移
1-3	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染地別報告数年次推移
1-4	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の国籍別・性別報告数年次推移
1-5	HIV感染者及びAIDS患者	東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数年次推移
1-6	HIV感染者及びAIDS患者	全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
1-7	HIV感染者及びAIDS患者	東京都以外のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
1-8	HIV感染者	全国に占める東京都のHIV感染者報告数割合年次推移
1-9	HIV感染者	東京都のHIV感染者の国籍別・性別報告数年次推移
1-10	HIV感染者	東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
1-11	HIV感染者	東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
1-12	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別・推定感染経路別報告数（平成19年）
1-13	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別報告数年次推移
1-14	AIDS患者	全国に占める東京都のAIDS患者報告数割合年次推移
1-15	AIDS患者	東京都のAIDS患者の国籍別・性別報告数年次推移
1-16	AIDS患者	東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
1-17	AIDS患者	東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
1-18	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別・推定感染経路別報告数（平成19年）
1-19	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別報告数年次推移
1-20	AIDS患者	東京都のAIDS指標疾患（平成19年）
相談・検査・療養体制		
2-1	エイズ電話相談	東京都のエイズ電話相談件数年次推移
2-2	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別（平成19年）
2-3	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢（平成19年）
2-4	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」の相談内容（平成19年）
2-5	HIV検査	東京都のHIV検査件数年次推移
2-6	HIV検査	東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移
2-7	医療機関	東京都のHIV感染者報告の届出別割合（平成16年～平成19年）
2-8	身体障害者手帳交付数	東京都のHIV感染者・AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳（免疫機能障害）交付数年次推移
2-9	性感染症検査	東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数（平成19年）
世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数		

# 1. HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

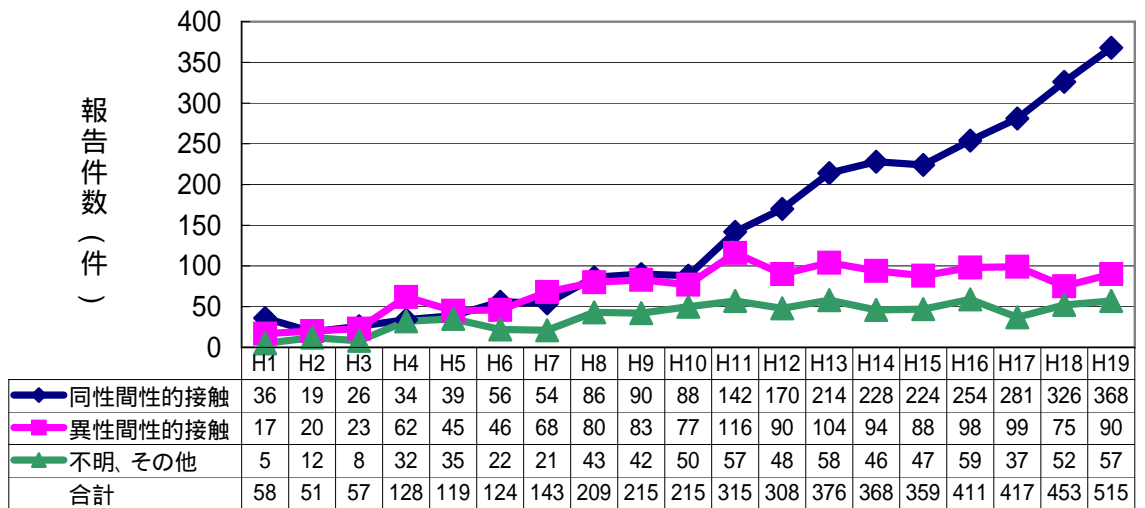
## [ HIV感染者とAIDS患者の集計 (HIV + AIDS) ]

1-1  
東京都と全国  
の報告数年次  
推移



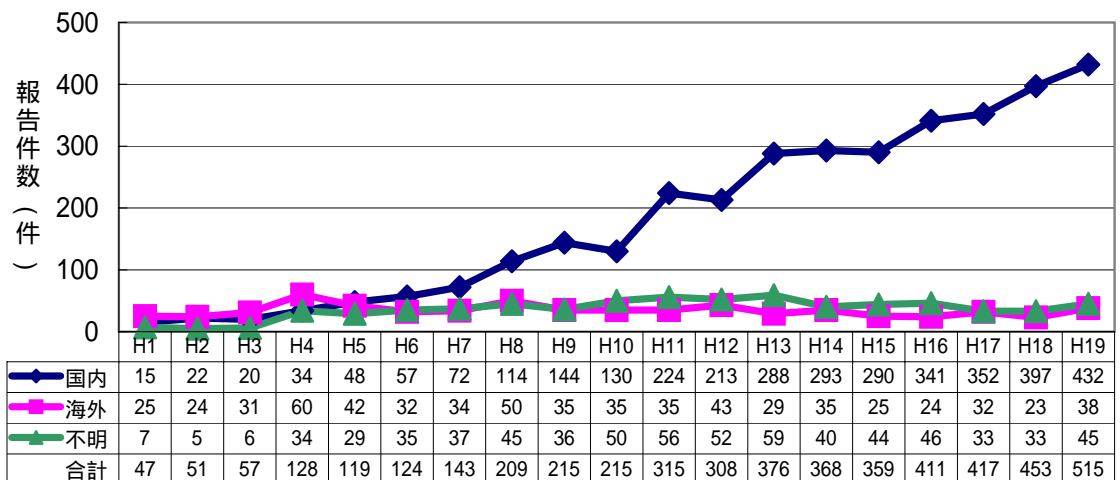
東京都、東京都以外とも報告件数が増加した。全国で見ると、4年連続で1,000件を超え、平成19年は過去最多となった。

1-2  
東京都の推定  
感染経路別報  
告数年次推移



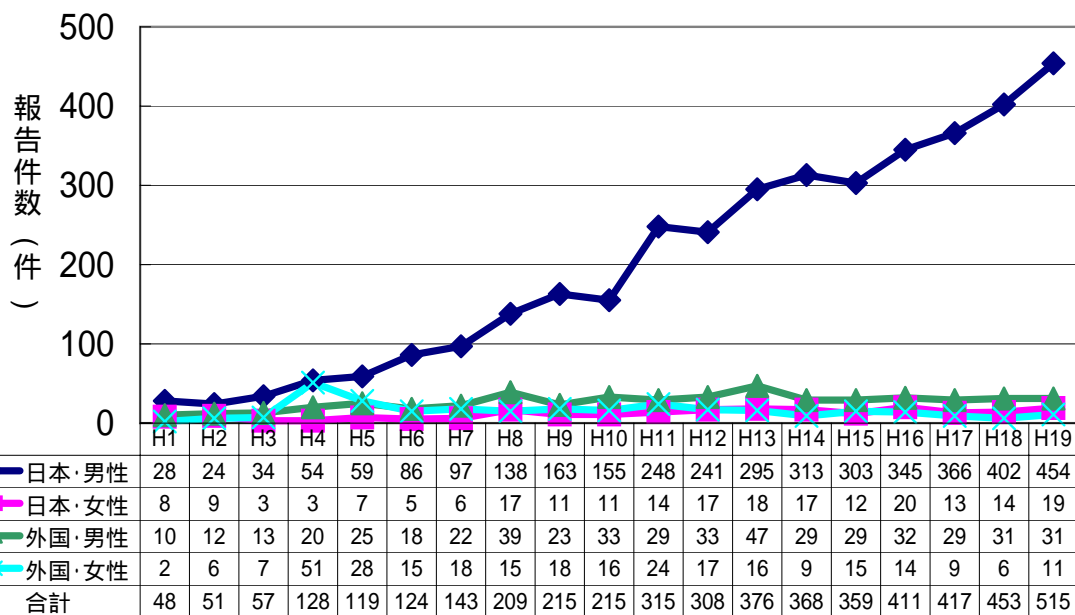
同性間性的接触による報告数は、年々増加しており、平成19年は過去最多となった。異性間性的接触も、昨年より増加したが、この数年は横ばい傾向となっている。

1-3  
東京都の推定  
感染地別報告  
数年次推移



国内による推定感染地報告が、年々増加している。海外も昨年より増加したが、この数年は横ばい傾向となっている。

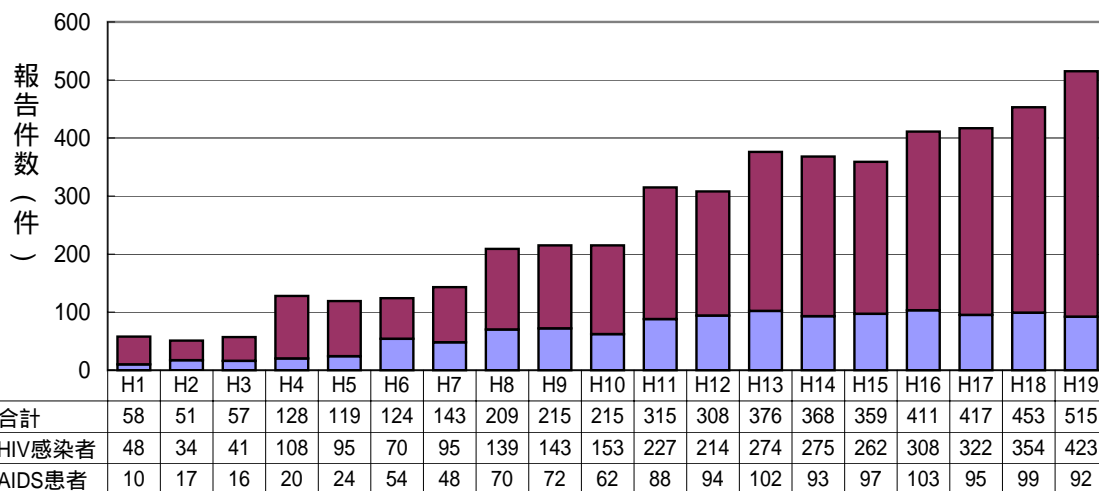
1-4  
東京都の国籍別・性別報告数年次推移



日本国籍男性の報告数が、年々増加しているが、それ以外では、横ばい傾向となっている。

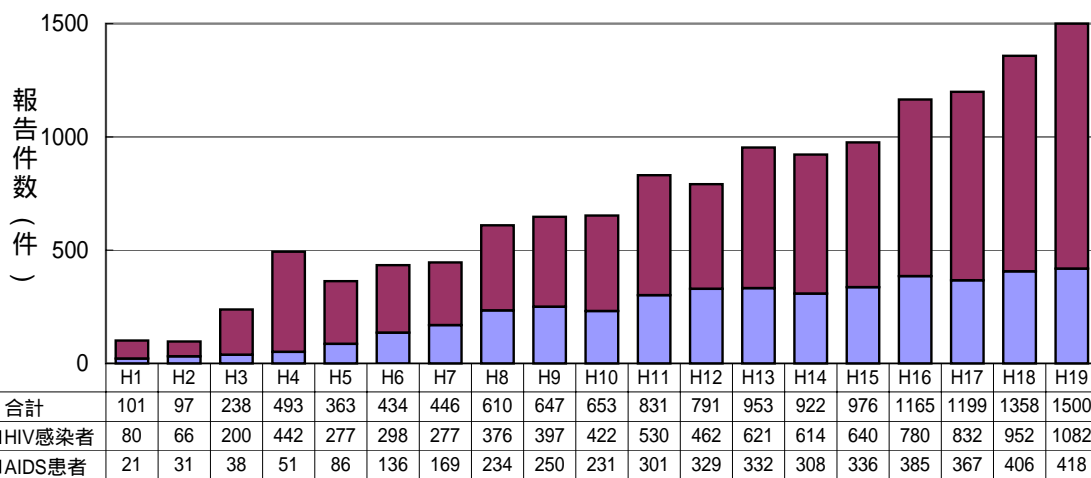
[ HIV感染者及びAIDS患者の集計 (HIV/AIDS) ]

1-5  
東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数年次推移



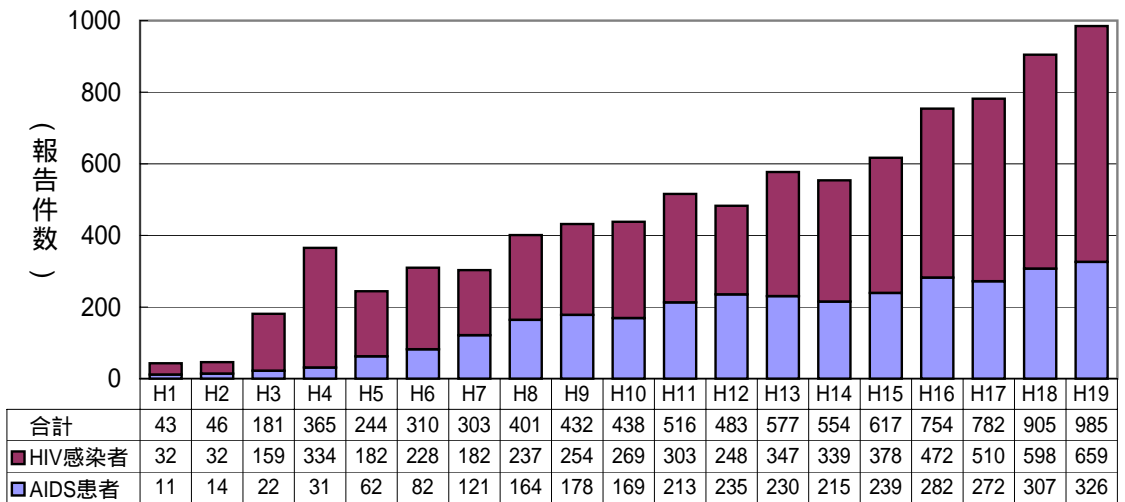
平成19年、東京都において、HIV感染者報告数は過去最多、AIDS患者報告数は過去8年で最も低い報告数となった。

1-6  
全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移



平成19年、全国において、HIV感染者報告数は過去最多となった。AIDS患者報告数は横ばい~やや増加傾向となっている。

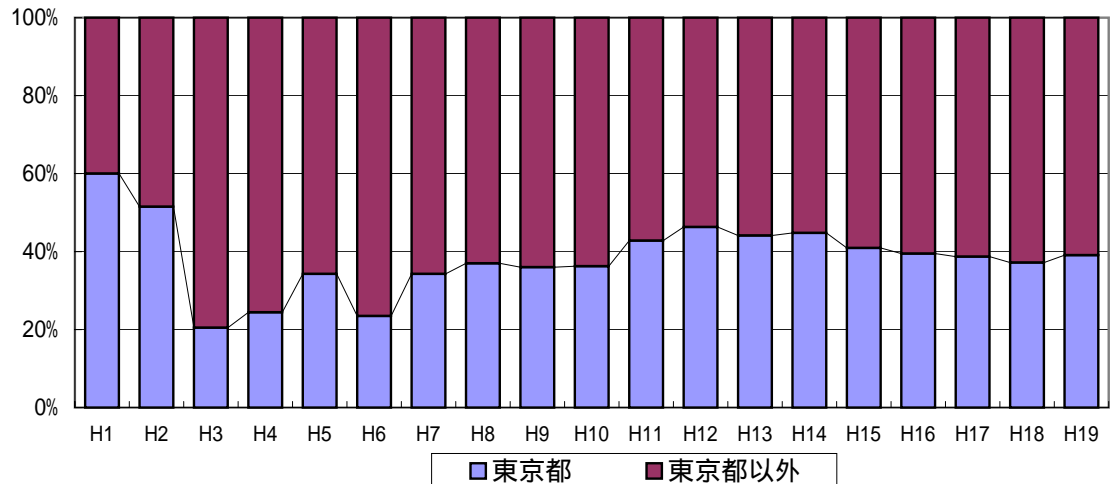
1-7  
東京都以外の  
HIV感染者と  
AIDS患者報告  
数年次推移



平成19年、東京都以外の道府県において、HIV感染者、AIDS患者報告数ともに過去最多となった。特にHIV感染者の報告数が増加した。

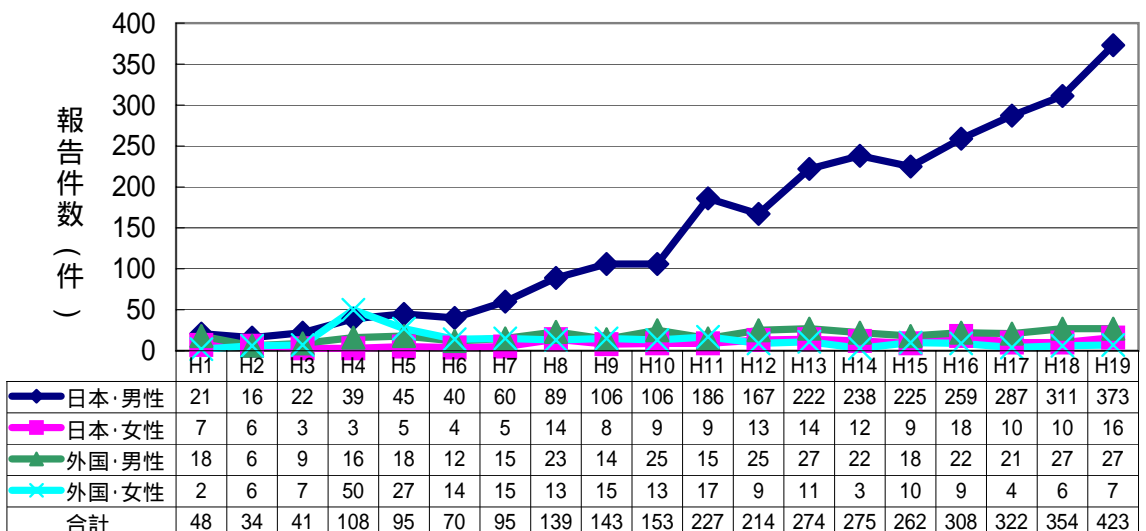
[ HIV感染者の集計 (HIV) ]

1-8  
全国に占める  
東京都のHIV感  
染者報告数割  
合年次推移



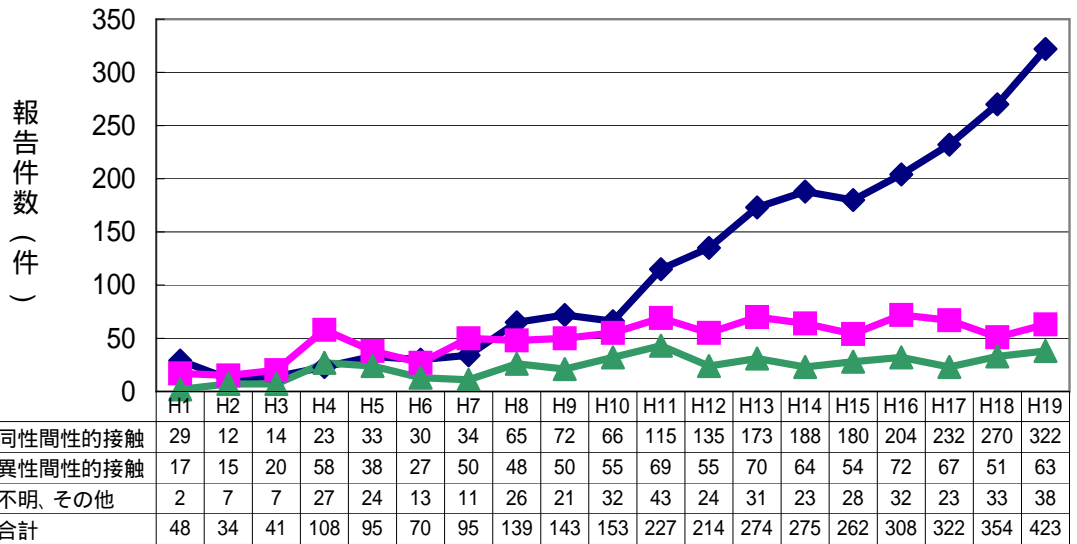
東京都のHIV感染者報告数は、近年、全国の約4割で推移している。

1-9  
東京都のHIV感  
染者の国籍  
別・性別報告  
数年次推移



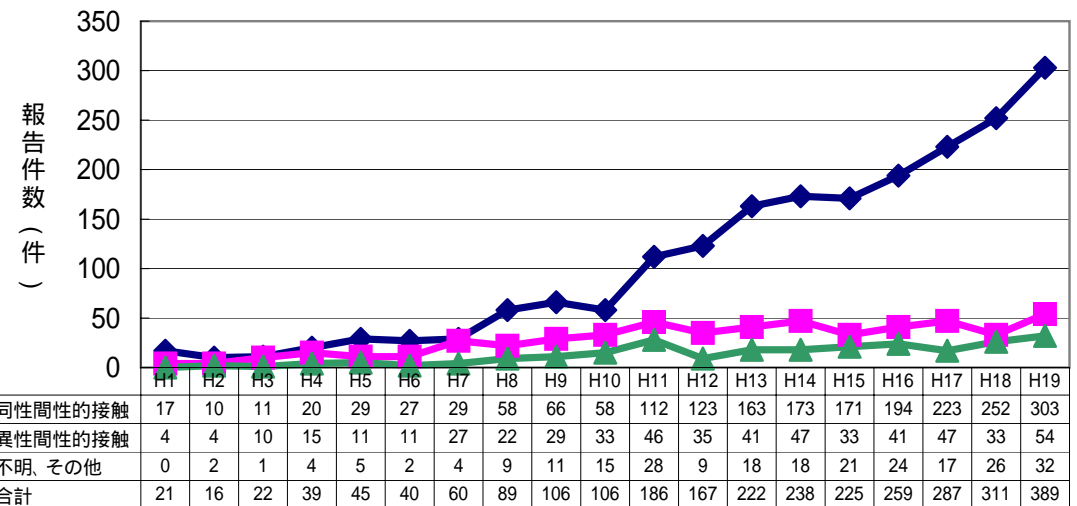
日本国籍男性の報告数が、年々増加している。また、近年、外国籍男性の報告数も、やや増加している。

1-10  
東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移



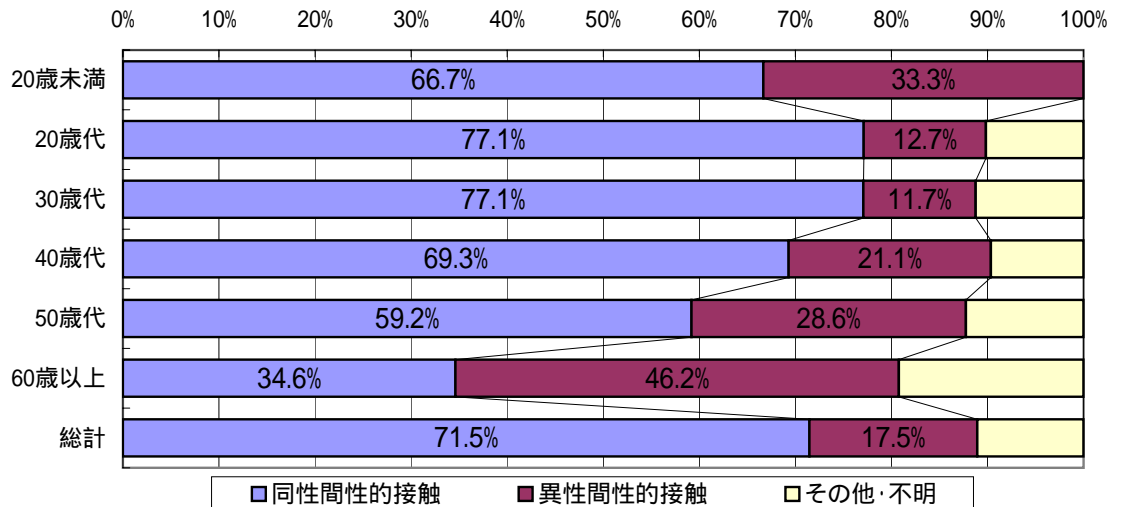
同性間性的接触による報告数が増加しているが、異性間性的接触の報告数はこの数年は横ばい傾向となっている。

1-11  
東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移



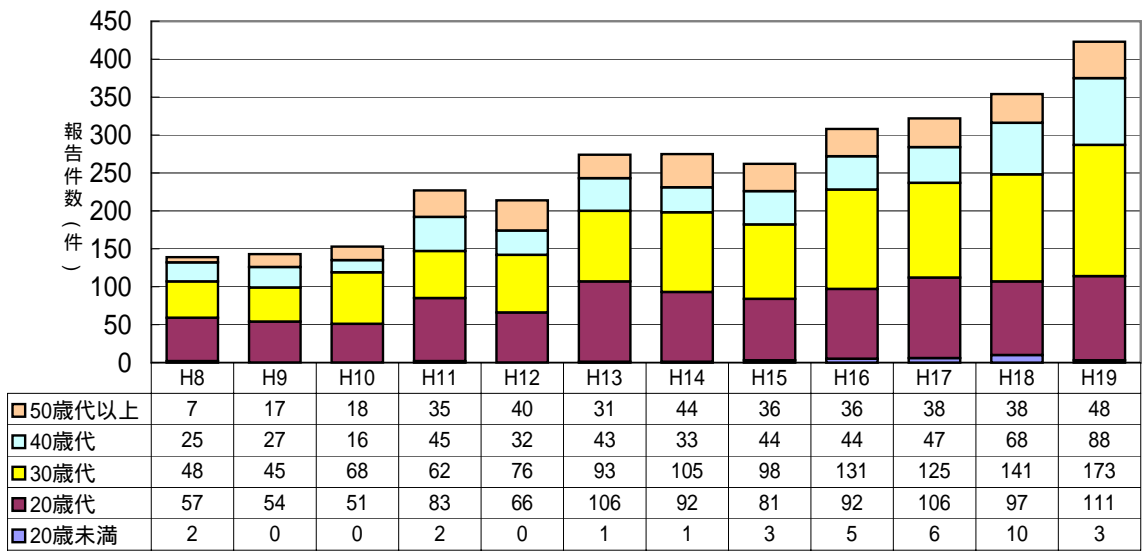
HIV感染者報告数の増加が多い日本国籍男性でみると、特に平成11年から同性間性的接触による感染が増加している。一方、異性間性的接触による感染はこの数年は横ばい傾向となっているが、平成19年は過去最多となった。

1-12  
東京都のHIV感染者の年齢別・推定感染経路別報告数(平成19年)



20歳未満と20～40歳代は、同性間性的接触による感染が多く、約70%以上を占めている。

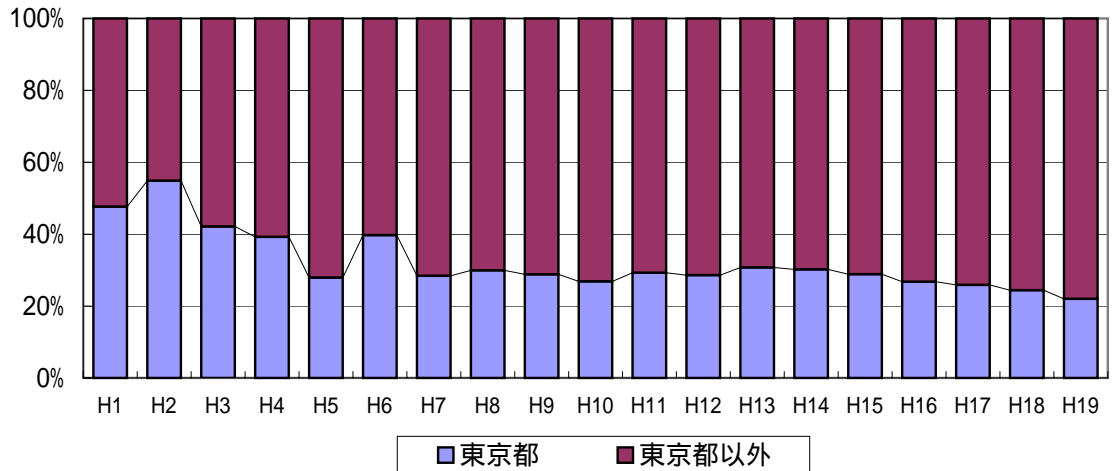
1-13  
東京都のHIV感  
染者の年齢別  
報告数年次推  
移



平成19年は、特に20歳代～40歳代で報告件数が増加した。20歳未満ではやや減少した。

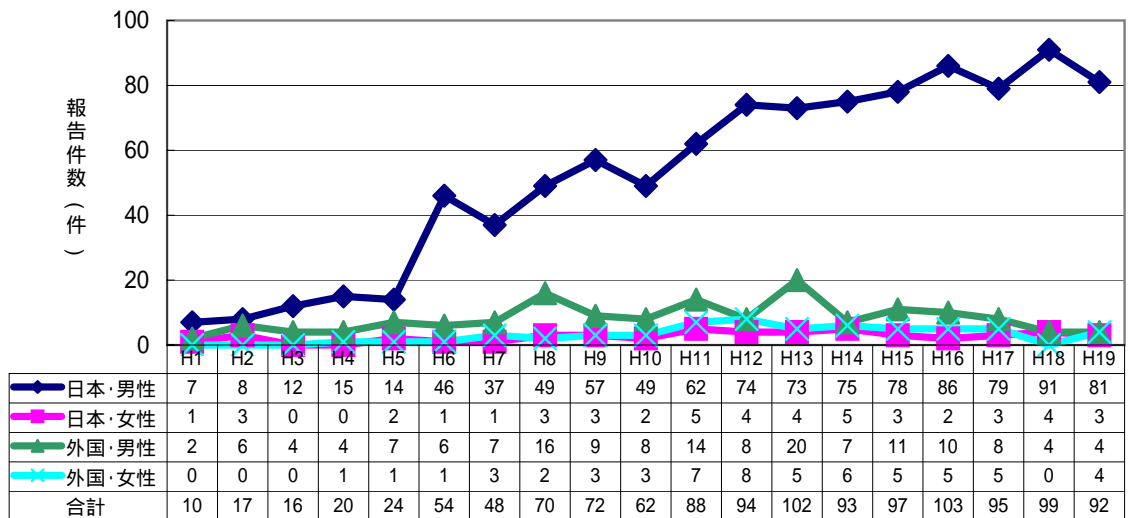
[ AIDS患者の集計 (AIDS) ]

1-14  
全国に占める  
東京都のAIDS  
患者報告数割  
合年次推移



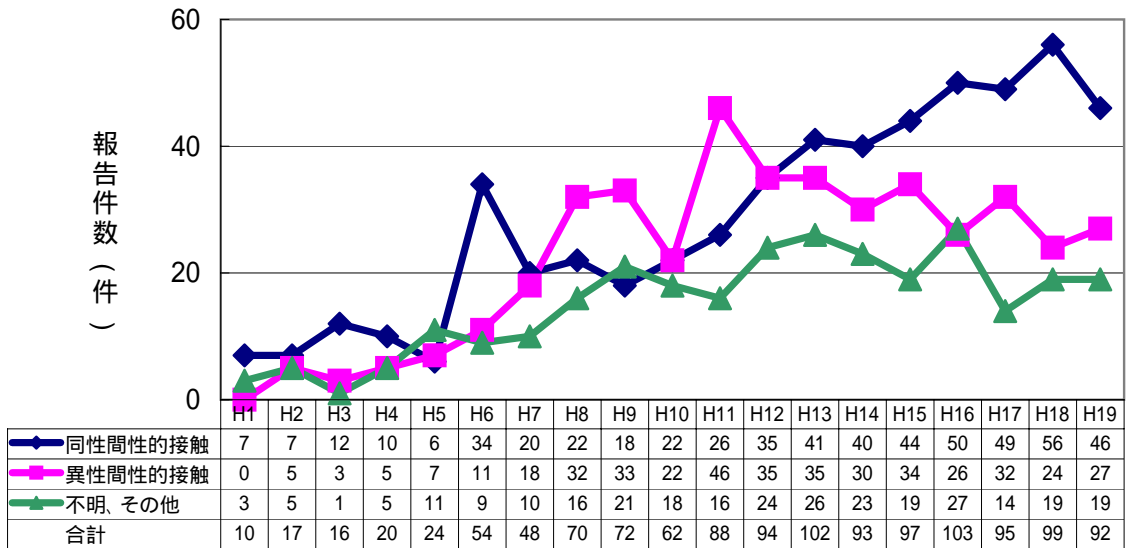
東京都のAIDS患者報告数は全国の約4分の1で推移しており、全国に対する割合はこの数年減少傾向となっている。

1-15  
東京都のAIDS  
患者の国籍  
別・性別報告  
数年次推移



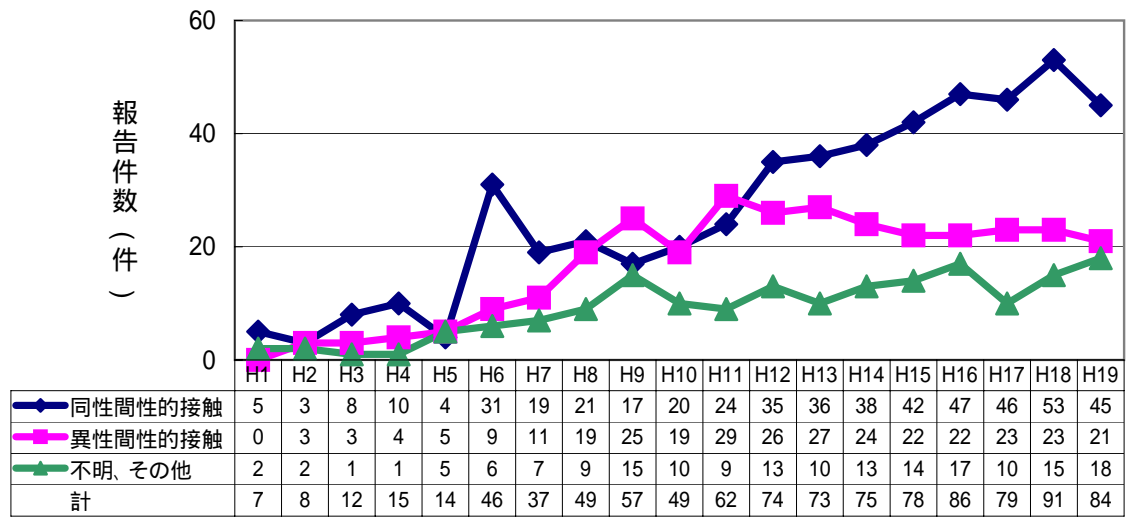
日本国籍男性で平成7年以降、報告数が増加傾向である。日本国籍女性や外国国籍では、大きな変化はない。

1-16  
東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移



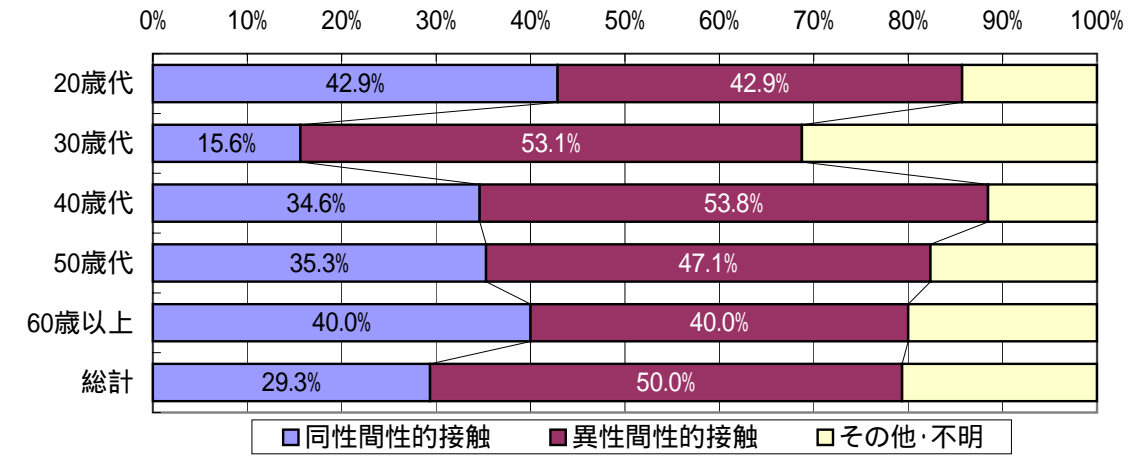
平成13年以降、同性間性的接触による報告数が、異性間性的接触によるものを上回っている。

1-17  
東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移



報告数の多い日本国籍男性で見ると、平成12年以降、常に同性間性的接触による感染報告が異性間性的接触によるものを上回るようになっている。

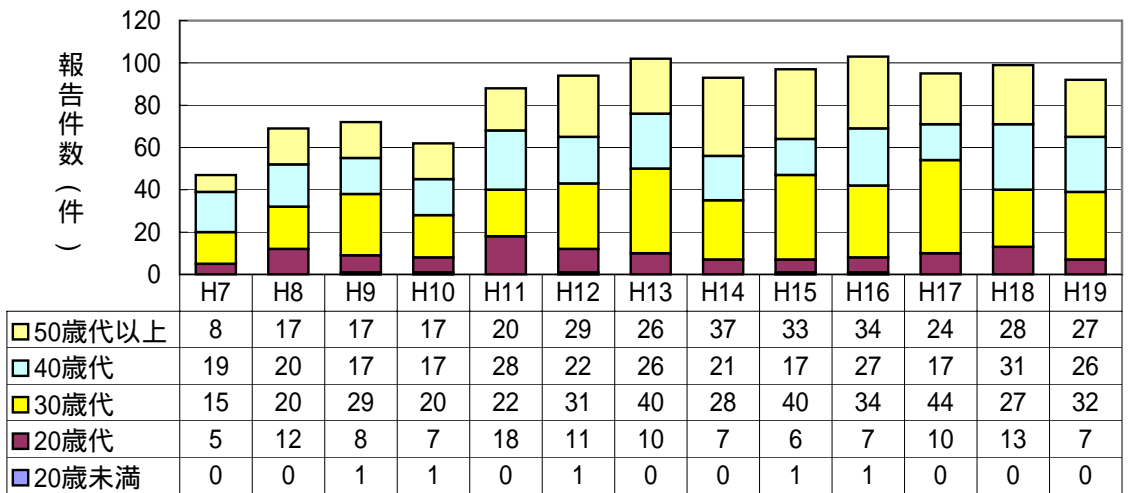
1-18  
東京都のAIDS患者の年齢別・推定感染経路別報告数(平成19年)



すべての年代において、同性間性的接触よりも異性間性的接触の割合が同等もしくは大きくなっている。



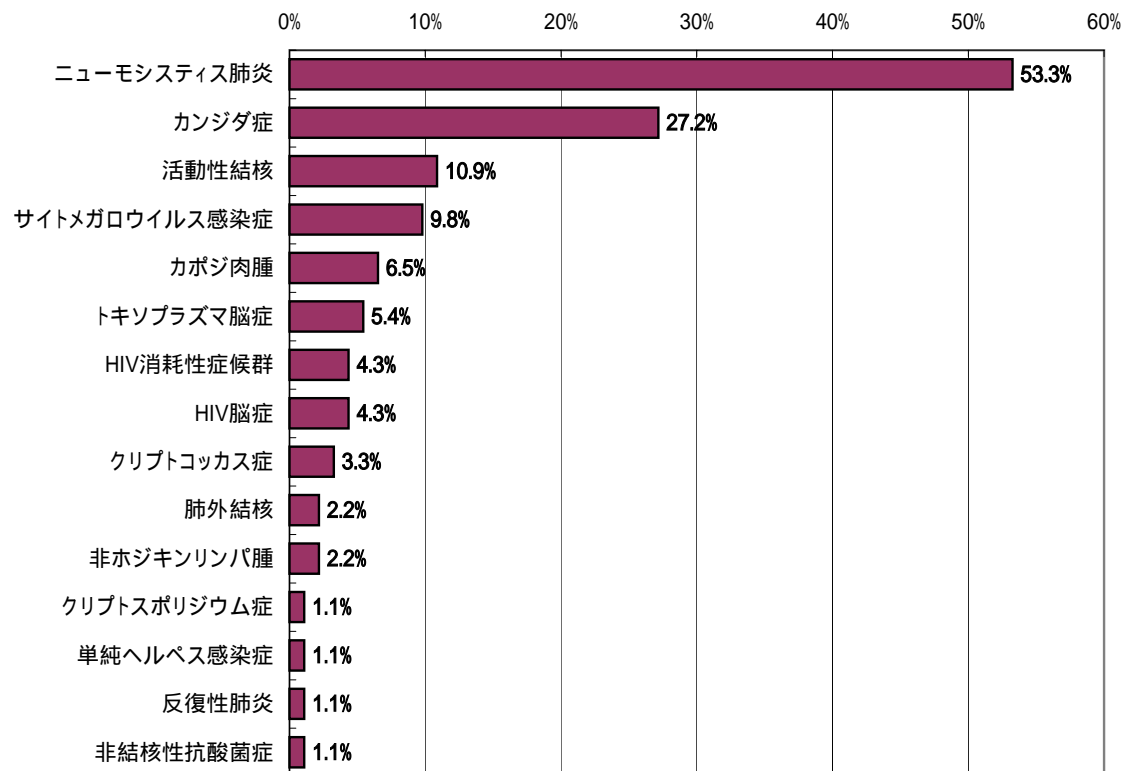
1-19  
東京都のAIDS  
患者の年齢別  
報告数年次推移



平成19年は、30歳代の報告件数が増加し、それ以外の年代の報告件数が減少した。

1-20  
東京都のAIDS  
指標疾患  
(平成19年)

\* 複数回答



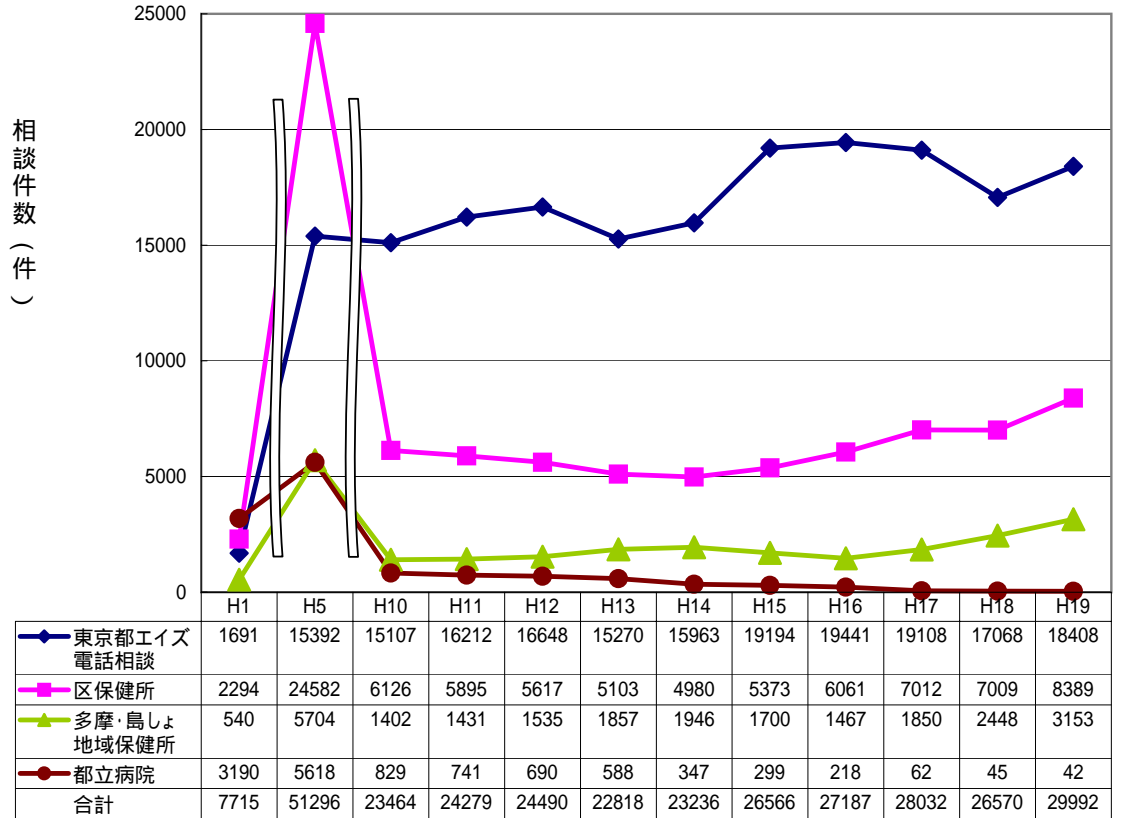
約半数が、ニューモシステス肺炎（カリニ肺炎）によりAIDSが診断されている。次いで、カンジダ症、活動性結核、サイトメガロウイルス感染症、カボジ肉腫の順で診断されている。

## 2. 相談・検査・療養体制

### [相談]

#### 2-1

#### 東京都エイズ電話相談件数年次推移



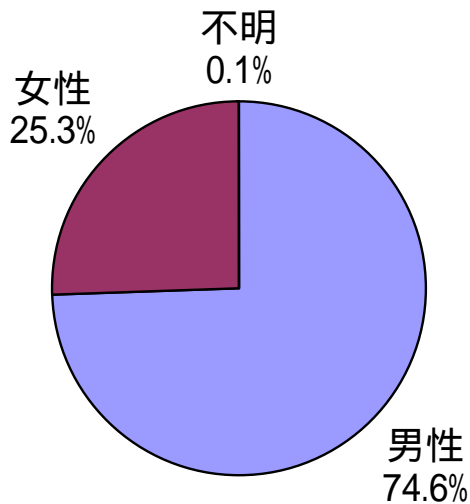
エイズ電話相談は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後、減少し、平成10年ごろより横ばいであった。この数年増加傾向である。

なお、「東京都エイズ電話相談」は平成10年度以前はエイズ対策係で実施していた電話相談の件数をふくむ。

平成19年度4月より八王子保健所は八王子市保健所となったが、経年比較をするために、従来の都保健所に含めて計上している。

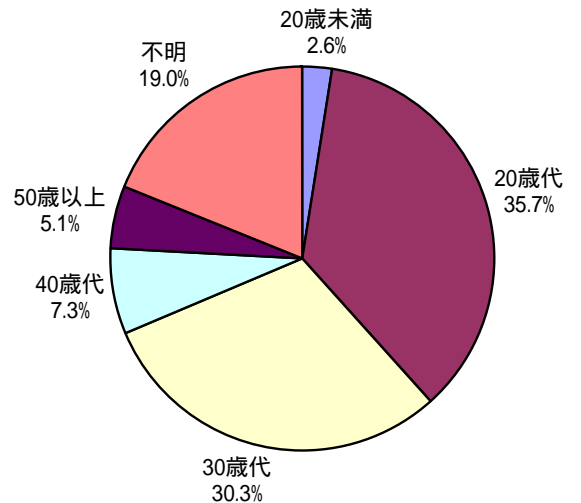
#### 2-2

#### 「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別 (平成19年)



#### 2-3

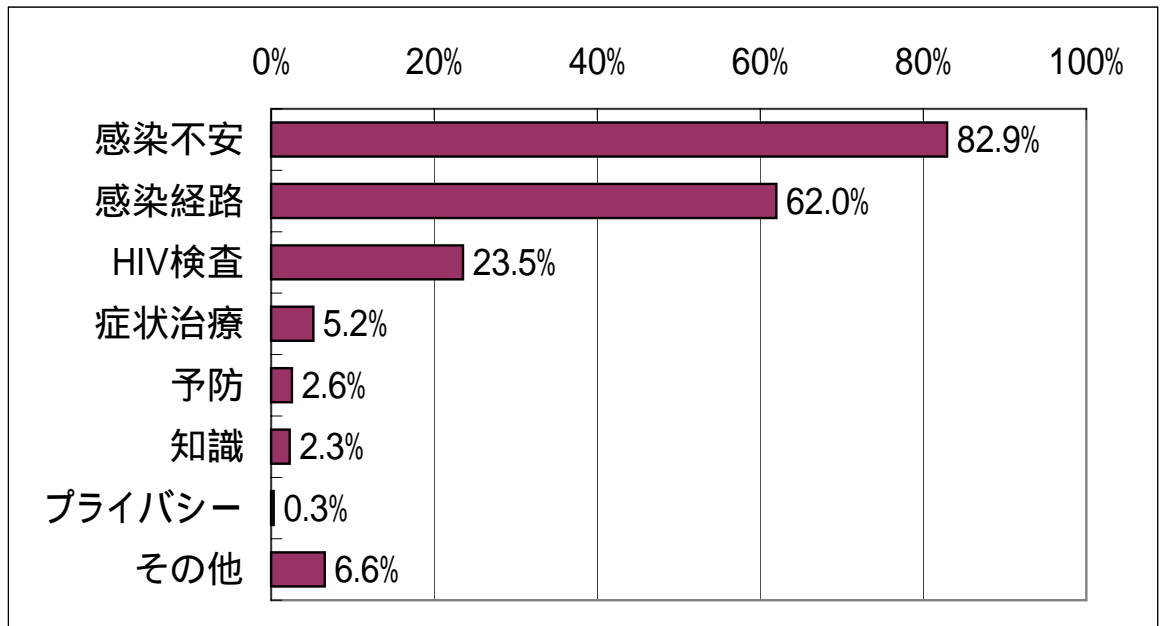
#### 「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢 (平成19年)



性別については、電話相談員が判断しており、4分の3が男性であった。年齢別に見ると20歳代・30歳代の相談が多く3分の2を占める。

2-4  
「東京都エイズ電話相談」  
の相談内容  
(平成19年)

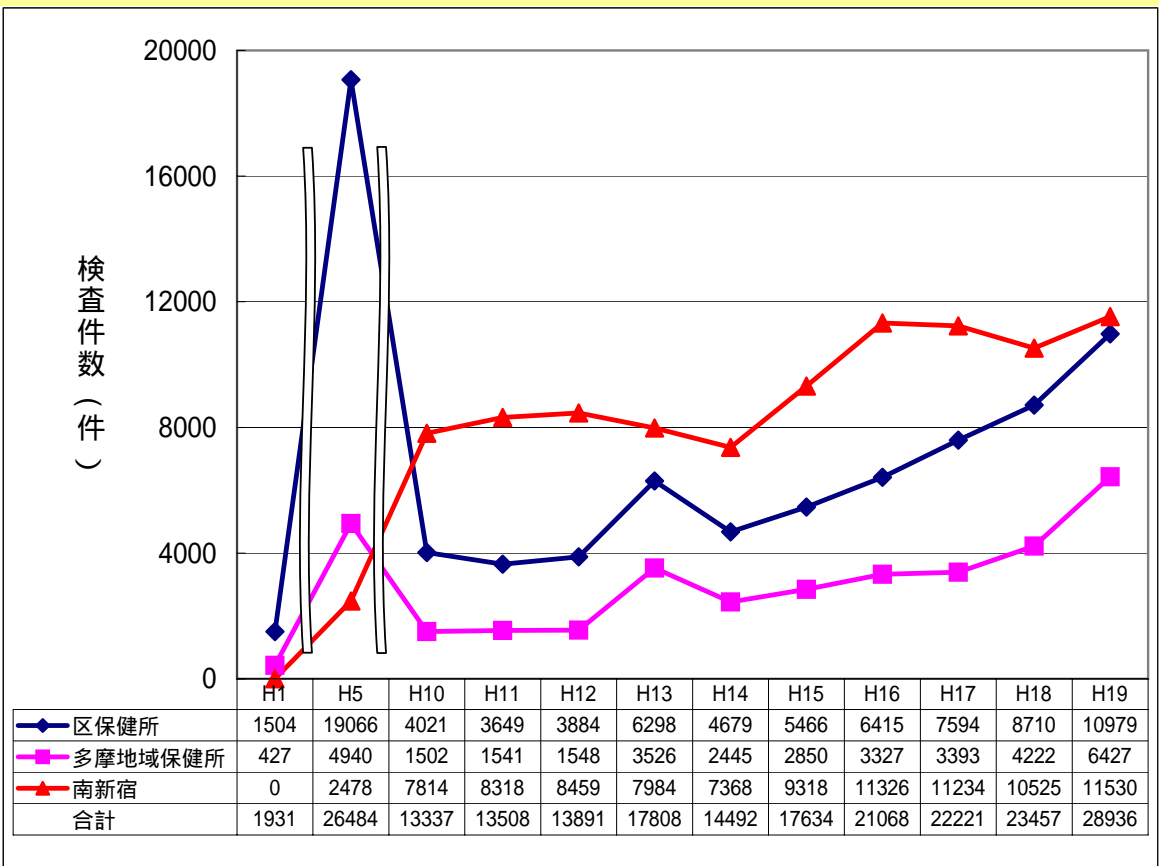
\* 複数回答



東京都エイズ電話相談の相談内容は、感染不安が約8割と最も多く、次に感染経路で約6割であった。相談内容が多岐にわたり、重複する場合もある。

[検査]

2-5  
東京都のHIV検査  
件数年次推移

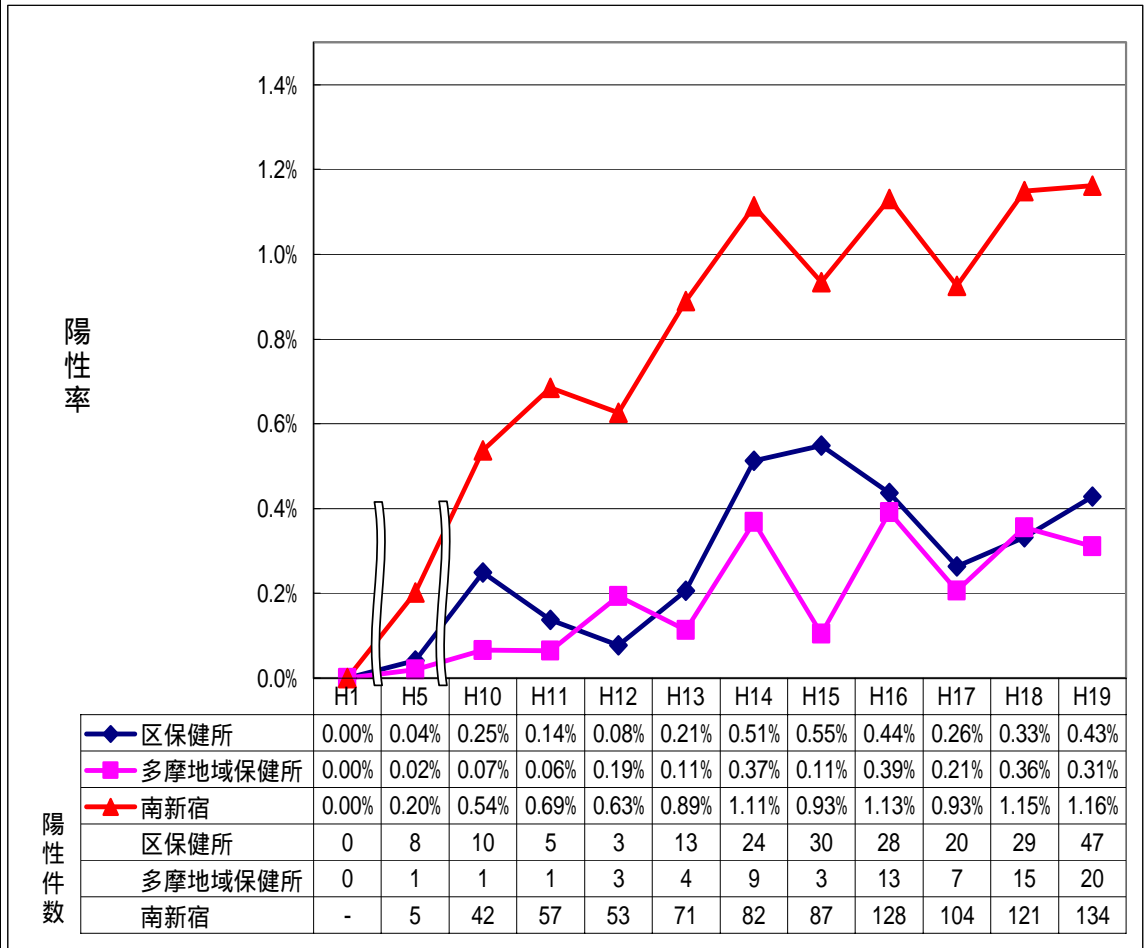


都内の保健所(区、八王子市、都の保健所)の検査件数は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後、減少した。平成10年ごろより横ばいであったが、平成15年以降増加している。平成19年は多摩府中保健所での検査開始及び多摩地域検査相談所が毎週実施となったこと、さらに港区で委託検査が開始となり、その他の区部保健所でも検査数は全体的に増加し、平成15年と比較すると2倍以上になった。

南新宿検査・相談室の検査件数は平成10年ごろから横ばいであったが、土・日曜日の検査を開始した平成15年より増加し、1万1000件前後で推移している。

なお、平成13年5月～10月に都内の保健所ではHIV検査時に希望者にC型肝炎ウイルス抗体検査を無料匿名で行ったため、平成13年の都内の保健所の検査件数は一時的に増加した。

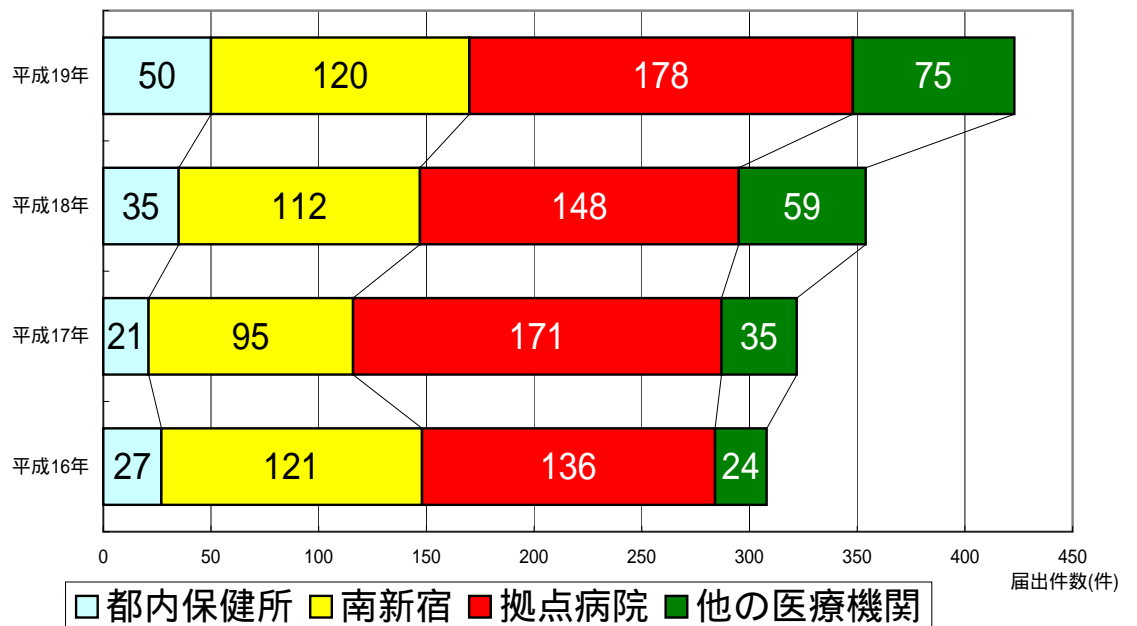
2-6  
東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移



平成19年は検査件数の増加により、陽性件数が増加した。陽性率は、前年と同程度であった。南新宿検査・相談室の陽性件数は134件となり、陽性率は1.16%であった。

[医療機関]

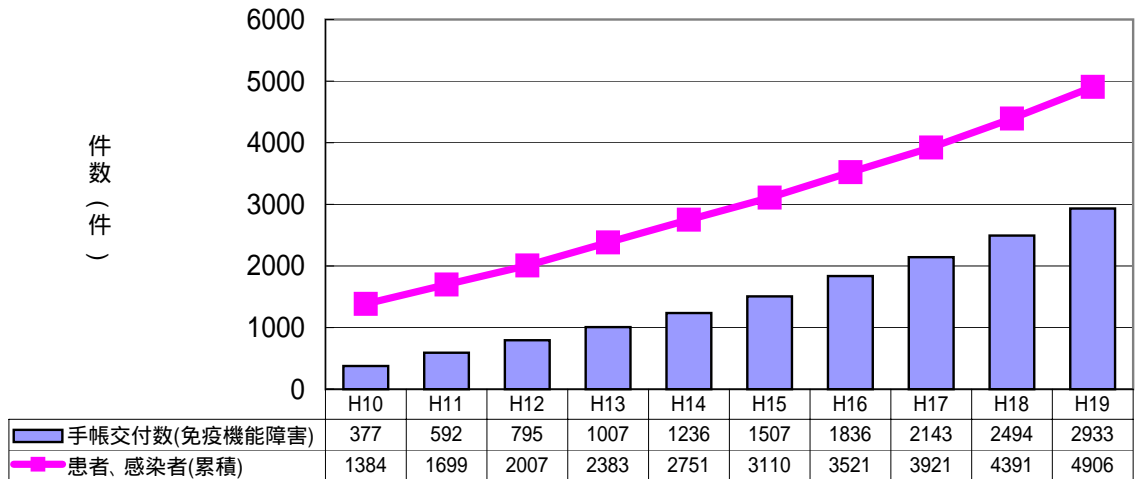
2-7  
東京都のHIV感染者報告の届出別割合  
(平成16年～平成19年)



平成19年、都内の保健所と南新宿検査・相談室の届出件数が増加し、あわせて全体の約4割を占めている。また、エイズ拠点病院以外の医療機関からも届出件数が増加している。

[身体障害者手帳]

2-8  
東京都のHIV感染者、AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳(免疫機能障害)交付数年次推移



患者、感染者報告数の累積件数の増加とともに、身体障害者手帳(免疫機能障害)の交付数も増加している。  
\* 数値は、各年末

[性感染症]

2-9  
東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数(平成19年)

		梅毒				淋菌		
		検査数(STS)	検査数(TPHA)	陽性数	陽性率(STS/陽性数)	検査数	陽性数	陽性率
区保健所	男	4,436	2,047	65	1.5%	1,618	0	0.0%
	女	3,043	1,465	15	0.5%	2,055	10	0.5%
多摩地域保健所	男	2,368	1,218	37	1.6%	1,476	5	0.3%
	女	1,408	719	6	0.4%	839	4	0.5%
南新宿	男	1,475	27	26	1.8%	-	-	-
	女	841	3	1	0.1%	-	-	-

		クラミジア				
		検査数	陽性数(IgA)	陽性率(IgA)	陽性数(IgG)	陽性率(IgG)
区保健所	男	4,546	566	12.5%	773	17.0%
	女	3,070	676	22.0%	938	30.6%
多摩地域保健所	男	2,507	271	10.8%	445	17.8%
	女	1,453	280	19.3%	423	29.1%
南新宿	男	1,475	168	11.4%	257	17.4%
	女	841	151	18.0%	259	30.8%

梅毒の陽性率は男性に高く、クラミジアは女性に高い。特にクラミジア(IgG)はどの検査会場でも、女性の3割が陽性となった。

3. 世界及び全国HIV感染者・AIDS患者数

世界のHIV/AIDS流行状況 2007年末 現在 (UNAIDS/WHO)		日本のHIV感染者、AIDS患者累計数 (厚生労働省)	
HIV 感染者数(2007 年末現在)		HIV感染者報告の累計数	9,643人
合計	3,320万人 (3,060-3,610 万人)	AIDS患者報告の累計数	4,544人
成人	3,080万人 (2,820-3,360 万人)		
女性	1,540万人 (1,390-1,660 万人)		
子供(15 歳未満)	250万人 (220-260 万人)		
2007 年における新規HIV 感染者数			
合計	250万人 (180-410 万人)		
成人	210万人 (140-360 万人)		
子供(15 歳未満)	42万人 (35-54 万人)		
2007 年におけるAIDS による死亡者数			
合計	210万人 (190-240 万人)		
成人	170万人 (160-210 万人)		
子供(15 歳未満)	33万人 (31-38 万人)		

推計値の右の( )内の範囲に実際の数値が存在する。推計値・範囲は入手可能な最良のデータを基にして算出された。

発行：東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策係  
郵便番号163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03-5320-4487 ファクシミリ03-5388-1432  
e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp

東京都南新宿検査・相談室（無料・匿名・電話予約）  
電話予約制 03-3377-0811

<予約受付時間>

月曜日から金曜日（祝日を除く）：午後3時30分から午後7時まで。

土曜日・日曜日（祝日を除く）：午後1時から午後4時30分まで。

\* 聴覚障害をお持ちの方のみ、ファクシミリでの予約申込みができます。

ファクシミリ 03-3377-0821

<窓口受付時間>

月曜日から金曜日（祝日を除く）：午後3時30分から午後7時30分まで。

土曜日・日曜日（祝日を除く）：午後1時から午後4時30分まで。

電話相談 電話 03-3292-9090

月曜日から金曜日：午前 9時から午後 9時まで。

土曜日・日曜日・祝日：午後 2時から午後 5時まで。

エイズに関する相談・検査（匿名・無料）は各保健所へ  
（一部、性感染症検査も同時に可能）